

## スクリプトダウンロード

[ロガー]

2020年2月12日 (株)データ・テクノ

1	1秒周期でコマンドを繰り返し送信する。	cyclic.txt
2	STXとETXはログデータに含めない。	omitstx.txt
3	ログファイルの拡張子を「.CSV」に変える。	extcsv.txt
4	CTS信号のON/OFFをログデータに含める。	ctsonoff.txt
5	1行ごとに日付・時刻を付加する。	datetime.txt
6	1秒周期でコマンドを送信しながら、日付・時刻を付加する。	dt_cyc.txt

※スクリプトをロガーで実行させるときには、ファイル名を「SCRIPT.TXT」または「SCRIPT.SCR」に変更してください。

1	1秒周期でコマンドを繰り返し送信する。	cyclic.txt
	1秒周期で「COMMAND」という文字列を送信します。	

#WAIT TIME 1S	1秒待ちます。 起動後安定するまでの時間が必要な場合は待ちます。 不要な場合は削除してください。
#LOOP	#ENDまでを永遠繰り返します。
#WAIT TIME 1S	1秒待ちます。必要な時間に書き換えてください。
/COMMAND	「COMMAND」という文字列を送信します。
#END	必要なコマンドに書き換えてください。 #LOOPの終端を示します。

2	STXとETXはログデータに含めない。	omitstx.txt
---	---------------------	-------------

#f:OMIT :0203	[STX](=0x02)と[ETX](=0x03)がログデータから省かれます。 ログデータから省きたいデータを指定してください。 文字で指定する場合は先頭に「/」を、16進数で指定する場合は先頭に「:」を付けます。 複数行指定できますが、指定できるのは最大で10バイトまでです。
---------------	--

3	ログファイルの拡張子を「.CSV」に変える。	extcsv.txt
---	------------------------	------------

#f:LFEXT CSV	ログファイルの拡張子が「.CSV」になります。 必要な拡張子を指定してください。 指定できる拡張子は最大3文字までです。
--------------	--

4	CTS信号のON/OFFをログデータに含める。	ctsonoff.txt
	CTS 信号が OFF から ON へ変化するとログデータに「CTS-On」と書き込みます。 また、CTS 信号が ON から OFF へ変化するとログデータに「CTS-Off」と書き込みます。	

#LOOP	直近の#END までを永遠繰り返します。
#WAIT CTSOFF	CTS 信号が OFF から ON へ変化するのを待ちます。
#WAIT CTSON	
#LOG CTS-On	ログデータに「CTS-On」と書き込みます。
#END	#LOOP の終端を示します。
#PROCESS	新しいプロセスを始めます。 これまでの記述とこれ以降は並行して実行されます。
#LOOP	直近の#END までを永遠繰り返します。
#WAIT CTSON	CTS 信号が ON から OFF へ変化するのを待ちます。
#WAIT CTSOFF	
#LOG CTS-Off	ログデータに「CTS-Off」と書き込みます。
#END	#LOOP の終端を示します。

5	1行ごとに日付・時刻を付加する。	datetime.txt
	改行[CR] (=0x0D)を受信すると、「, YYYY/MM/DD hh:mm:ss [CR] [LF]」をログデータに書き込みます。	

#f:OMIT :0D0A	[CR](=0x0D)と[LF](=0x0A)をログデータに含めるのを抑止させます。
#LOOP	#END までを永遠繰り返します。
#WAIT DATA :0D	[CR] (=0x0D)を受信するのを待ちます。
#LOG , 20@Y/@M/@D, @h:@m:@s@r@n	日付時刻と[CR] [LF] (=0x0D =0x0A)を、ログデータに書きます。
#END	#LOOP の終端を示します。

6	1秒周期でコマンドを送信しながら、日付・時刻を付加する。	dt_cyc.txt
	1秒周期で「[ESC] P [CR] [LF] (=0x1B =0x50 =0x0D =0x0A)」を送信します。 ある種のはかりは、これによりデータを返してきます。 改行[CR](=0x0D)を受信すると、「, YYYY/MM/DD hh:mm:ss [CR] [LF]」をログデータに書き込みます。	

#f:OMIT :0D0A	[CR](=0x0D)と[LF](=0x0A)をログデータに含めるのを抑止させます。
#WAIT TIME 1S	起動後安定するまで1秒待ちます。 不要な場合は削除してください。
#LOOP	直近の#END までを永遠繰り返します。
#WAIT TIME 1S	1秒待ちます。
:1B500D0A	「[ESC] P [CR] [LF] (=0x1B =0x50 =0x0D =0x0A)」を送信します。
#END	#LOOP の終端を示します。
#PROCESS	新しいプロセスの記述を始めます。 これまでの記述とこれ以降は並行して実行されます。
#LOOP	直近の#END までを永遠繰り返します。
#WAIT DATA :0D	[CR](=0x0D)を受信するのを待ちます。
#LOG , 20@Y/@M/@D, @h:@m:@s@r@n	日付時刻と[CR] [LF] (=0x0D =0x0A)を、ログデータに書きます。
#END	#LOOP の終端を示します。